キャンパスの四季　Four Seasons in SHC　(No.25)　2014/12/10

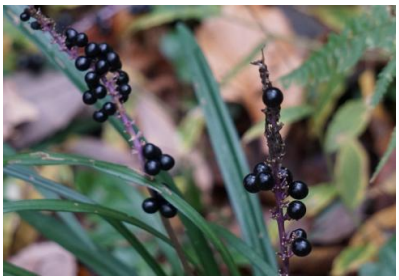
＜花と見紛う＞植え込みにはサザンカの花が盛りですが野辺や雑木林では殆ど花が見られません。そんな中、花と見紛う実を付けているのがマユミです。まだ青々とした葉と枝から伸びた細い柄の先に肌色がかったピンクの四角い実を沢山付けています。マユミは真弓とか檀と書き古くから弓や櫛の材としても親しまれてきた樹で万葉集にも登場します。

（まゆみ）南淵(みなぶち)の　細川山に立つ檀（まゆみ）　弓束（ゆづか）巻くまで　人に知らえじ（万葉集）：こと（恋）が成就するまで人に知られないようにしましょう、という歌でしょうか。

＜マユミ＞

＜やはり黒い実＞木の実には黒が多いと前号で述べましたが雑木林の下ばえや縁辺に生える草の実も黒ですね。ナルコユリ､ヤブミョウガやイヌホウズキの実も熟すと黒くなります｡とりわけヤブランは緑の細長い葉の間から立ち上がった柄に艶のある黒い実が付いていて目を惹きます。ところでヤブランの根は秋口に掘り起し乾燥すると“大葉麦門冬(だいようばくもんどう)”という滋養強壮、咳止めの薬になります。

＜イヌホウズキ＞



＜ヤブラン＞

＜空に向かって＞秋から冬にかけては“むかご飯”を味わう時期です。雑木林に分け入るとヤマノイモのむかごが見つかります。このむかごはたかだか径 1 cm ほどのものです。ところがこの夏、ゴウヤに混じって空に向かって勢いよく育っていたヤマノイモの仲間は数メートルもの高さにまでむかごを付けていてその大きさは径 7-8 cm ほどのものがあります｡時期が来ればむかごは自然に落ちるのですが当たれば怪我をしそうです。フィリピン原産の“宇宙いも”そして”air potato”といわれるものでこれから味わってみようと思っています。

＜ヤマノイモのむかご＞

＜宇宙いものむかご＞

＜睥睨（へいげい）＞冬鳥の数が増えてきました。かれこれひと月ほど前から姿を現したやや大きめの野鳥は決まって見晴らしの良い高い所にとまり辺りを見回しています。尻尾を上下に振る姿や色からどうやらオオモズが縄張りを主張しているようです。一方、年中身近にいるスズメにとっては朝方の寒さは我慢しかないのでしょう。膨らんで丸くなっています。（文と写真：松本正勝）

＜オオモズ＞

＜スズメ＞